

第3学年 外国語（英語）学習指導案

日 時：令和3年2月3日（水）第5校時

1. 単元名 学び方コーナー①「文章のまとめ方」（NEW HORIZON English Course 3）

2. 単元の目標

- ・文章の構成を意識し、論理的でまとまりのある文章を書く。 【外国語表現の能力】
- ・自分の伝えたいことを整理し、文章の構成を考えながら論理的な文章を書くための知識を身につける。 【言語や文化についての知識・理解】
- ・論理的でまとまりのある文章を聞き、内容を理解できる。 【外国語理解の能力】
- ・読み手を意識しながら、積極的に文章を書く。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

3. 学習の基盤

（1）教材観

3年生は卒業を翌月に控え、学校、友だち、先生との思い出を振り返ることが多く見られる時期である。図書館に対しても同様に、3年間でさまざまな本との出会いなどがあり、思い出の場所のひとつになっていると思われる。そんな金城中学校の図書館の蔵書から各自が1冊を選び、ALTに論理的でまとまった英文で紹介するという学習は、本単元「文章のまとめ方」において、生徒にとって必然性の高い学習となると思われる。また、本単元では、導入、展開、結論という文構成のもと文章をまとめることを狙っている。教科書の全てのユニットの学習を終えた今、既習の文法事項や論理的に書く手順に関する知識など、自分に必要な表現方法を使い、伝える相手を意識しながら自分なりの文章をまとめる力をさらに付けるためにも適材と考え、本単元を設定した。

（2）生徒について

省 略

（3）指導観

本単元の学習目的をより明確にし、学習への意欲化を図るために、最初に学習の流れを提示する。ここでは、「自分たちが卒業した後も、日本語勉強中のALTの先生が皆を思い出しながら本を読めるように、学校図書館からALTの先生へのオススメ本を1冊選び、その本について英語で紹介する」である。その際、なぜこのゴールを設定したかの理由、「卒業する3年生に向けて学校図書館司書さんが、先生たちのお薦めの本をまとめた冊子を作っている。今ALTの先生も作っている。そこで今年は、もらうだけでなく、皆もALTの先生にお薦めの本を英語で紹介してほしいと考えた」と伝える。その際、相手がALTの先生ということ踏まえて選書し、小説に限らず、絵本や写真集でもよいことも伝える。そうすることで、本校の蔵書では本が選ばれなかった生徒も、活動に参加できると考える。

英語を正確に書くことについては、生徒の力にかなりの差がある。自分でどんどん書き進められる生徒もいれば、友だちや教師の助言を必要とする生徒もいる。教師の個別の支援や友だちのサポートを入れながら、和やかな雰囲気でも原稿作りを進めたい。

さらに、今回は、書く活動だけでなく、書いた内容の発表活動も取り入れる。そうすることで、友だちのお気に入りの本についての情報を学級で共有でき、友だちへの理解をより深めることができると思う。また、ALT による本の紹介も聞くことにし、国籍を超えて読書の楽しみを共有できることにも気付かせたい。

4. 「Can-do リスト」の形での学習到達目標との関連（第3学年：書くこと）

○さまざまな主題について、情報や自分の考えなどが読み手に正しく伝わるよう、文章の構成を意識して5文以上で書くことができる。

5. 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
英作文の読み手を意識しながら、積極的に題材選びや作文に取り組む。	既習事項を活用して論理的でまとまりのある文章を書くことができる。	ALTや友だちのプレゼンテーションの内容を理解することができる。	自分の伝えたいことを整理し、文章の構成を考えながら論理的でまとまりのある文章を書く手順に関する知識を身につけている。

6. 単元の指導計画及び評価計画（全3時間）

時 数	○ねらい・主な学習活動	評 価				
		関	表	理	言	主な評価規準（評価方法）
2	<p>○学習のねらいとゴールを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で自分が紹介する本を決める。 <p>○選んだ本を紹介するためのまとまりのある文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル文を参考に、論理的で、相手に分かりやすい文章を書く。 ・必要に応じて、辞書や教師・友人のアドバイスを活用する。 ・製本用の清書をする。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・自分が紹介する本を積極的に選ぶとしている。（関・観察）
		○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に作文に取り組んでいる。（関・観察） ・論理的でまとまりのある文章を書いている。（表・ワークシート） ・自分の伝えたいことを整理し、文章の構成を考えながら書いている。（言・ワークシート）
1 本 時	<p>○ALTに紹介したい本について英語で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した原稿をもとに発表したり、友だちの発表を聞いたりする。 ・発表の内容について質問したり答えたりする。 <p>○3年生に紹介したい本についてのALTの発表を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の蔵書ではない初見の本についての説明を聞く。 ・発表の内容について質問したり質問に答えたりする。 <p>○本や図書館の意義を再確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元の学習やそれまでの図書館との関わりを振り返り、今後の図書館活用への意欲を高める。 		○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・論理的でまとまりのある文章を発表している。（表・観察） ・発表された内容を理解することができる。（理・ワークシート）
					○	<ul style="list-style-type: none"> ・発表された内容を理解することができる。（理・ワークシート）

7. 本時の学習

(1) ねらい

○他者に紹介したい本について、論理的でまとまりのある文章で発表をしたり、発表を聞いて内容を理解したりできる。
(外国語表現の能力・外国語理解の能力)

(2) 展開

分	学習活動	○教師の支援	☆評価
2	1 ウォームアップ ・英語での簡単な Q&A をする。	○英語学習に向かう雰囲気を作る。 ○英語の音に慣れさせる。	
2	2 本時の目標と活動の流れを確認する。 目標:①選んだ本をまとまりのある文章で紹介しよう。②紹介された内容を理解しよう	○生徒に活動の見通しを持たせる。	
2 6	3 本を紹介するまとまりのある文章を発表したり、発表を聞いたりする。 ・実物を見せながら発表する。(10名程度) ・内容について質問があれば聞いたり、質問に答えたりする。 ・発表を聞いた生徒はワークシートに記入する。	○スムーズに活動に取り組めるよう具体的に説明する。	☆すでに作成している論理的でまとまりのある文章を発表できる。 ☆発表を聞いて内容を理解できる。
1 4	4 ALT の発表を聞く。 ・パワーポイントを見ながら発表を聞く。 ・内容について質問があれば聞く。 ・ワークシートに記入する。	○内容が分かりづらそうな場合は補足の説明を ALT に促す。	
6	5 本や図書館の意義を再確認する。 ・本単元の学習やこれまでの図書館との関わりについての教師の話聞き、今後の図書館活用への意欲を高める。	○日本語も使いながら話をする。	

(3) 本時の評価

観点	十分満足と判断される生徒の具体例	努力を必要とする生徒への指導の手立て
外国語表現の能力	ALT に紹介したい本について、論理的でまとまりのある文章を作成し、発表することができる。	ALT に紹介したい本について、論理的でまとまりのある文章を作成できていたが、発表できなかった理由を確認する。

観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足と判断される生徒の具体例	努力を必要とする生徒への指導の手立て
外国語理解の能力	論理的でまとまりのある文章を聞いて、ワークシートの自己評価で5段階中4以上の理解を示している。	論理的でまとまりのある文章を聞いて、ワークシートの自己評価で5段階中3以上の理解を示している。	論理的でまとまりのある文章を聞いて、ワークシートの自己評価で5段階中2以下の理解を示している生徒には、どこが難しいと感じたか時後確認し、今後の支援につなげる。

●授業研究の視点

○外国語（英語）の視点より

- ・ALT に本を紹介する文章を書くという学習活動は、文章のまとめ方を学習するという観点から有効であったか。
- ・プレゼンテーション活動を、外国語表現の能力、外国語理解の能力の観点で評価する方法は適切であったか。

○図書館活用教育の視点より

- ・国籍を超えて読書の楽しみや喜びに気付かせることができる学習活動だったか。
- ・中学校卒業後も含めて、今後の読書への意欲を持たせることができる学習活動だったか。

8. 研究協議の概要

参加者	校内12名、校外10名 計22名
授業及び研究協議の概要	<p>(授業の概要)</p> <p>金城中学校の図書館の本の中から、各自1冊選び、ALTに英文で紹介するという学習を行った。教科書のすべてのユニットの学習を終え、既習の文法事項や論理的に書く手順に関する知識など、自分に必要な表現技法を使い、伝える相手を意識しながら、自分なりの文章をまとめる力をつけることをねらいとした。本時は、生徒がALTに英文で本を紹介するという場面だった。</p> <p>(研究協議の流れ)</p> <p>①授業者より</p> <p>本時までの英作文は大変スムーズで、辞書を使いながら、一人でじっくり考えながら行っていた。今回は、ALTに紹介するという事で、誰に紹介するのかということがはっきりしており、生徒も学習に取り組みやすく、力が発揮できたようだった。</p> <p>②グループ協議</p> <p>3～4人のグループを編成し、以下の視点で話し合った。</p> <ul style="list-style-type: none">・英語の授業について・今年度の学校図書館活用教育の取り組みを振り返って <p>③指導主事より指導助言</p> <p>今回の授業は、読書センター機能と情報センター機能が融合した授業だった。本を活用する場面の目的意識がはっきりしており、生徒が興味をもって学習できていた。</p> <p>図書館活用教育において、あくまで教科のねらいが一番なので、どの場面でどう活用すると効果的かということ、各教科で考えて取り組んでいく必要がある。</p>